

令和6年度 第1四半期

退職等年金給付組合積立金 運用状況



目次

- ・ 令和6年度 第1四半期運用実績（概要） P 2
- ・ 令和6年度 第1四半期市場環境（その1） P 3
- ・ 令和6年度 第1四半期市場環境（その2） P 4
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 P 5
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 7
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 9
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 P 11

令和6年度 第1四半期運用実績（概要）

運用収益額 + 1. 29 億円 ※実現収益額
(第1四半期)

運用利回り + 0. 12% ※実現収益率
(第1四半期)

運用資産残高 1, 064 億円
(第1四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

令和6年度 第1四半期市場環境(その1)

【各市場の動き(令和6年4月～令和6年6月)】

国内債券：10年国債利回りは上昇(債券価格は低下)しました。期初はFRB(米連邦準備理事会)の利下げ観測後退に伴う米国長期金利上昇や日銀追加利上げに対する警戒感から、利回りは上昇(債券価格は低下)してのスタートとなりました。その後も日銀の国債買い入れ減額に関する思惑等から、引き続き利回りは上昇(債券価格は低下)基調を辿りましたが、期末にかけて米国長期金利等の強弱材料が交錯する中、利回りは一進一退の展開となりました。

国内株式：国内株式は上昇しました。期初は下落して始まりましたが、日銀の金融政策に関する安心感の高まりを背景に4月下旬に株価は値戻しに転じました。その後は為替動向や企業決算等を睨みつつ、方向感に乏しい展開となりましたが、期末にかけては円安等を材料とした自動車株や金融株の上昇に牽引されて、株価は上値を切り上げました。

外国債券：米国10年国債の利回りは上昇(債券価格は低下)しました。期初はFRB(米連邦準備理事会)の利下げ観測の後退により、利回りは上昇(債券価格が低下)してのスタートとなりましたが、5月以降、雇用統計や物価上昇率の鎮静化を受けて、利回りは低下(債券価格は上昇)基調を辿りました。

ドイツ10年国債の利回りは上昇(債券価格は低下)しました。6月上旬にかけて米国長期金利の上昇や独鈷工業生産の上振れ等から、利回りは強含む(債券価格は低下)展開となりましたが、期末にかけてECB(欧州中央銀行)の利下げ決定等により、利回りは低下(債券価格は上昇)に転じました。

外国株式：米国株式(NYダウ)は下落しました。期初はFRB(米連邦準備理事会)の利下げ開始時期に関する思惑から下落して始まり、5月以降、好決算等を好感し、株価は上値を試す展開となりましたが、米国長期金利の上昇が嫌気され、上昇幅を縮小しました。期末にかけては強弱材料が交錯し、レンジ内推移に終始しました。

欧州株式(ドイツDAX指数)は下落しました。期初は下落して始まり、その後、米国株高に連れて史上最高値を更新する局面もありましたが、期末にかけてはフランスの国民議会選への警戒感等から、株価は反落に転じました。

外国為替：ドル/円はドル高・円安となりました。期初はFRB(米連邦準備理事会)の利下げ観測後退に加え、中東情勢の警戒感が高まりドル買いが先行しました。4月末にかけて日本の通貨当局による為替介入の警戒感からドル高修正に転じる局面もありましたが、期末にかけては日米の政策金利差縮小観測の後退等からドル高・円安基調を回復しました。

ユーロ/円はユーロ高・円安となりました。日本の通貨当局による為替介入の思惑やフランス国民議会選で極右や左派連合の懸念から一時的にユーロ高が修正される場面もありましたが、期末にかけてユーロ高・円安が進展しました。

○ ベンチマーク収益率

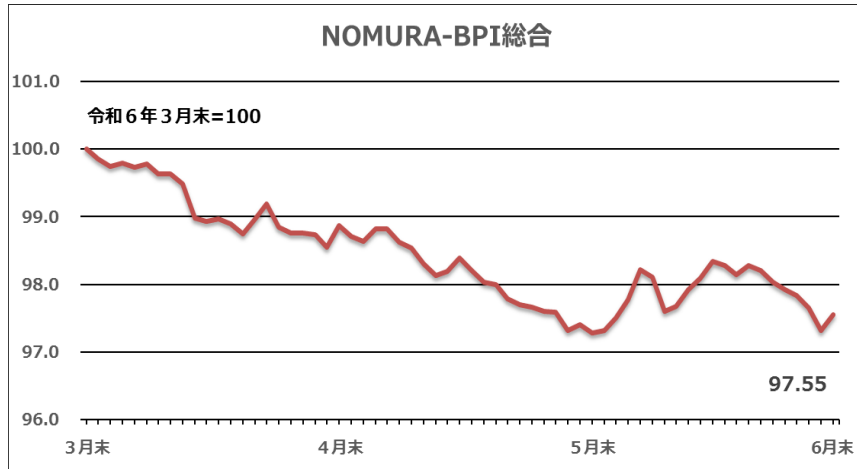
○ 参考指標

	令和6年3月末～ 令和6年6月末	令和6年3月末	令和6年4月末	令和6年5月末	令和6年6月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	▲2.45%	国内債券 (新発10年国債利回り) (%)	0.727	0.879	1.070
<国内株式> TOPIX(配当込み)	1.69%	国内株式 (TOPIX) (ポイント)	2,768.62	2,743.17	2,772.49
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース)	5.44%	国内株式 (日経平均株価) (円)	40,369.44	38,405.66	38,487.90
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	9.94%	外国債券 (米国10年国債利回り) (%)	4.200	4.680	4.499
		外国債券 (ドイツ10年国債利回り) (%)	2.298	2.584	2.664
		外国株式 (NYダウ) (ドル)	39,807.37	37,815.92	38,686.32
		外国株式 (ドイツDAX) (ポイント)	18,492.49	17,932.17	18,497.94
		外国為替 (ドル/円) (円)	151.35	157.8	157.31
		外国為替 (ユーロ/円) (円)	163.30	168.22	170.62
					160.88
					172.39

令和6年度 第1四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和6年度第1四半期) ※令和6年3月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

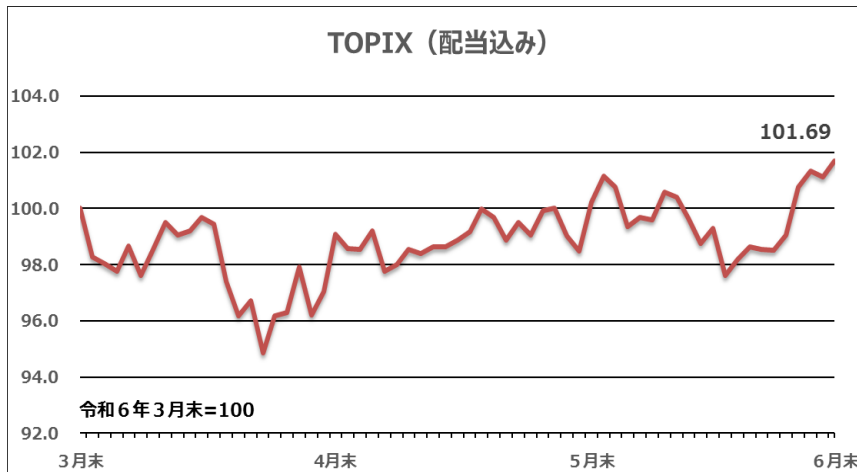
【国内債券】



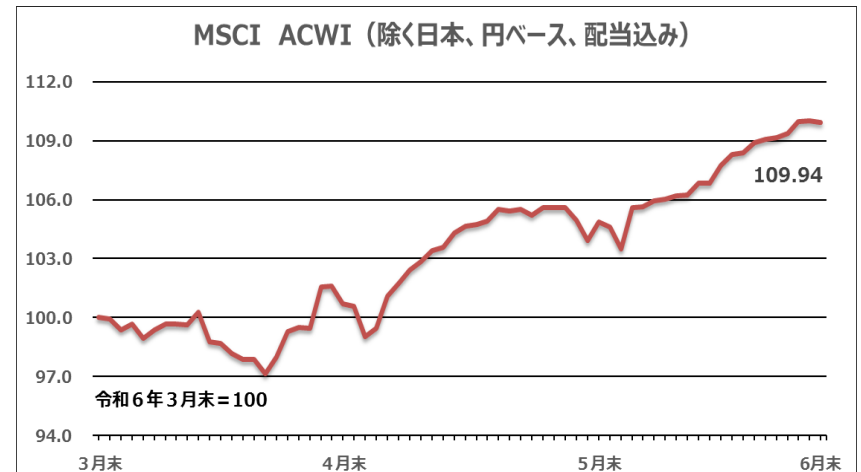
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】



令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和5年度	令和6年度				基本 ポートフォリオ
	年度末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	—	—	—	100.0
うち短期資産	(2.3)	(1.9)	—	—	—	
合計	100.0	100.0	—	—	—	100.0

(注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。

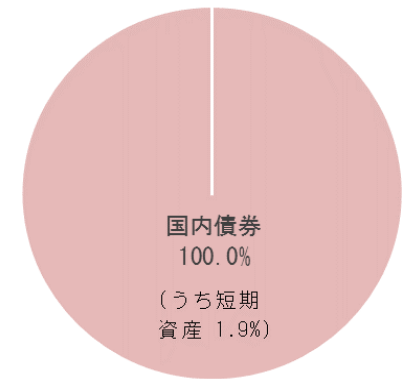
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。

(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

第1四半期末 運用資産別の構成割合



令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和6年度第1四半期の実現収益率は、0.12%となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.12	—	—	—	0.12
国内債券	0.12	—	—	—	0.12
うち短期資産	(0.00)				(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲2.69	—	—	—	▲2.69

- (注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
 (注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
 (注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
 (注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.10	0.11	0.11	0.12	0.44
国内債券	0.10	0.11	0.11	0.12	0.44
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.79	▲3.32	1.14	▲0.27	▲1.70

令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	1.29	—	—	—	1.29
国内債券	1.29	—	—	—	1.29
うち短期資産	(0.00)	—	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲26.72	—	—	—	▲26.72

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
(注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。
(注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.93	1.03	1.12	1.20	4.28
国内債券	0.93	1.03	1.12	1.20	4.28
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	7.01	▲30.92	10.58	▲2.64	▲15.97

令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和6年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	1,064	985	▲79	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち短期資産	(20)	(20)	(0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,064	985	▲79	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(単位：億円)

	令和5年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	938	912	▲25	972	914	▲58	1,011	963	▲48	1,036	983	▲53
うち短期資産	(18)	(18)	(0)	(13)	(13)	(0)	(25)	(25)	(0)	(24)	(24)	(0)
合計	938	912	▲25	972	914	▲58	1,011	963	▲48	1,036	983	▲53

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和6年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額
(計算式)
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率
(計算式)
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
(計算式)
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
(計算式)
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付
債権の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。
一般に BBB 格までが投資適格とされ、BB 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。